

〔資料〕

# 妙幢淨慧撰『古今舍利驗論』翻刻と解題(一)

関口 静雄

〔解題〕

黄檗の禅僧妙幢淨慧撰『古今舍利驗論』を翻刻紹介する。底本は東洋大学図書館哲学堂文庫蔵上中下三卷五冊本を採った。閲覧及び翻刻を御許可下さった東洋大学図書館に深甚の謝意を奉る。

本書は卷之下末すなわち五冊目巻尾に、

元祿四<sup>辛</sup>未<sup>辛</sup>年僧自恣日

沙門 妙幢 淨慧 謹跋

洛陽錦小路新町西入町

永田調兵衛梓行

とあって、元祿四年(二六九二)七月、淨慧四十歳前後の撰述と知れる。梓行年月日の明記はないが、撰述後それほど間を置かず永田調兵衛から版行されたものと思われる。同版が大谷・駒澤・大正・龍谷の各大学図書館に所蔵があり、国会図書館に同版を書写した一冊本が所蔵されている。右哲学堂本五冊はいずれも縦二十七糎・横十九糎、薄茶色紙表紙の四穴袋綴装で、水色の題簽紙に「古今舍利驗論」の摺題簽があり、内題も題簽題に同じく「古今舍利驗論」とある。版芯題は「舍利驗論」で、版芯下部に以下のように丁付がある。

第一冊	卷上	一—四十三丁
第二冊	卷中本	一—三十三丁
第三冊	卷中末	三十一—六十四丁
第四冊	卷下本	一—三十二丁
第五冊	卷下末	三十三—六十八丁

本書の流布状況や同時代また後世への影響についてはほとんど明らかではないが、ただ台山千光院住持沙門訥堂釈義宥が文政四年(二八二二)初夏に撰じた『新撰佛舍利驗傳』(講堂蔵版。佛教大学図書館蔵)の「題言」に、「近代沙門妙幢<sup>マツダ</sup>子。以<sup>ニ</sup>國字<sup>ヲ</sup>。著<sup>ス</sup>舍利驗論二卷<sup>ヲ</sup>其<sup>ノ</sup>論或<sup>ハ</sup>正<sup>シ</sup>。然<sup>トモ</sup>枝議朶論。横<sup>ニ</sup>生<sup>スル</sup>異見<sup>ヲ</sup>者<sup>ノ</sup>。不<sup>レ</sup>爲<sup>レ</sup>妙<sup>ト</sup>矣。如<sup>キ</sup>其<sup>ノ</sup>驗<sup>ヲ</sup>。則<sup>チ</sup>多<sup>ク</sup>ハ是<sup>レ</sup>閭巷無名<sup>ノ</sup>尼女子<sup>ノ</sup>爾。恐<sup>ハ</sup>未<sup>レ</sup>免<sup>ニ</sup>入<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>取捨<sup>ヲ</sup>也。」と評し、自身は高名貴紳・高僧等とそれになつわる舍利靈驗譚を集録している。『古今舍利驗論』に二巻本が存したかどうかはまだ確かめ得ないが、義宥の『新撰佛舍利驗傳』が淨慧の『古今舍利驗論』に触発されて撰述されたものだと知られる。しかし義宥の難じた、その論が「枝議朶論」であり、驗の多くが「閭巷無名<sup>ノ</sup>尼女子<sup>ノ</sup>爾」であることが淨慧の国字を以てする本書撰述の基本姿勢であって、また真骨頂であった。

〔翻刻凡例〕

- 一、東洋大学図書館哲学堂文庫蔵『古今舍利驗論』上中下三卷五冊本を底本とした。各冊に〔御大典紀念圖書哲學堂甫水圓了〕の蔵書印と〔寶林寺〕の旧蔵印がある。
- 一、可能な限り原文の表記を尊重し、明らかな誤刻もそのまま翻刻した。
- 一、合字は「ㄱ」(コト)のみ採り、以外は通行の表記に改めた。
- 一、「ㄱ・ㄱ・ㄱ」「玉・王」等の混用字体は文意をとって適字を置いた。
- 一、頭注は各話の末尾に一括して掲出した。
- 一、半丁ごとに丁数を示し、各話間に空行を置いた。